

世界旅打ち気分

●第85回・オートイユとメゾンラフィット

須田鷹雄



写真1) オートイユのスタンドから左手を見た景色。エッフェル塔も見える。



写真2) かつてのメゾンラフィット競馬場でレースを終えた馬を迎える人たち。



写真3) メゾンラフィット競馬場のパドック風景。

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

この連載も放っておくとオーストラリアばかりになってしまつので、他の国も織り交ぜていこう。今回はフランスである。しかもパリの、観光客が行きやすい競馬場だ。御紹介するのはオートイユ競馬場。障害専門の競馬場である。

場所はパリの中心部から見て西というか南西というか、そちら方向。あの有名なロンシャン競馬場がブローユの森の西側にあることを御存知の方は多いだろうが、オートイユは森を挟んで反対、森の東側にある。そのぶん都心部に近い。向正面のすぐ奥は高層住宅だし、スタンドから見て左手にはエッフェル塔も見える。直線距離で4キ口、車で道沿いだとも5キ口ほどだろうか。

交通の便もいい。地下鉄10号線のポルトドートイユ駅から入場門まで、徒歩で10分ほど。その道を歩いているときに送迎バスに追い越されたことがあるので、どこかターミナル駅からバスが出ているのかもしれない。

このオートイユ競馬場は開場が1873年というから明治初期。翌年にはフランスグランドナショナルが行われ、これが後にパリ大障

害となる。

コースは左右方向に細長い感じで、櫛コースが2本配置され、1、2コーナー方向には内回りと外回りがあふ。それらと櫛の片方が合流するスタンド前ところは幅員でいつたらどのくらいになるか分からないほど広い。距離設定はレースによつていろいろあるが、いちばん長いのはハードルで5100メートル、ステイプルチェイスだと5800mだそう。

コースが横長なので内馬場のスペースも横長になるが、そもそも広いので他のスポーツのフィールドが作られ有効活用されている。スタンドから見て右手にはラグビー場とサッカー場が、左手にはグラウンドホッケー場とバスケットボールコート2面、さらに屋内プールがある。ここへ出入りするために地下道も作られているがさすがに開催中に競技はしていないと思うので、我々が地下道を抜けて内馬場に行く機会はまずない。ただこのプールは市民プールのようなので、地元民にとってはむしろ内馬場のほうがなじみがあるのかもしれない。場内には見てほしいスポットがいくつある。2018年に行つた

まりそんなところから乗り換え一度挟めば到達できる。

ただ、駅から競馬場は遠い。2.5キ口というから、ちよつと歩ける距離ではない。私が行つた頃はUberなどなかったたので、路線バスの時間をこりこりに調べていくしかなかった。

コースはオートイユ以上に左右に細長い。周回コースに内回りと外回りがあふ、斜めに横切る櫛コースが一本。さらに向正面からとスタンド側から、同一方向(スタンドから右手)にシュートが伸びているユニークな作りだ。反対側に短いシュートもあり、最大で2000mの直線が取れる。この競馬場のウリは「右回りも左回りもできる」ことで、大井競馬場が左回りを始めたときには、「メゾンラフィットが廃止になったので、大井が世界唯一の右左両回りコース」と謳っていた。

このメゾンラフィット競馬場は1878年開場。ウィキペディア知識だが、創設者はバリミューチュアル方式を開発したうちのひとりらしい(考案者は別の人のようだ)。ということば、日本のようなオッズ変動式の馬券が最初に売られ

きりなのでいまもあるか分からないが、まずは入場門近く、いちばん4コーナー寄りのスタンド。相当古くからあるスタンドで、8年前すでに客は入れないようになっていた。そのとき耐震なのか取り壊し準備なのかいろいろ鉄骨が組まれていたのてつきり取り壊しなのだと思つていたら、2024年6月撮影のグーグルストリートビューでまだその姿が確認できる。鉄骨が入ったことで雰囲気は失われているが、ひよつとすると19世紀から建つているスタンドで雰囲気がある。

2つめは、世界の主要障害競走を施行している競馬場の方角と距離を示すオブジェ。方角は正確なものらしく、イギリスはチェルトナム、エイントリー、ケンプトンが指し示されているが、書かれている距離だけでなく方角もほんの少しずつずれている。他にイタリアのカバンネツレとメラノ(グラン・プレミオ・ディ・メラノ)が行われる競馬場、ベルギーのワレヘムが指し示され、さらに我らが中山競馬場の方角も指し示されている。距離はオートイユ競馬場から9738キ口だそうである。

3つめは、スタンド裏手に置か

たのはここなのだろう。

廃止まではG1でないもののいくつかの重賞競走が行われていたのだが、残念ながら2019年に閉場となり、調教専用施設となった。フランスギャロの財政難によるものことだつたが、開場して土地を売つてしまつたらともかく、利用し続けるなら財政上の影響はほぼ同じなような気がする。

実際そうだったのかもしれないが、ここへきてメゾンラフィットは復活・再オープンの話が出ている。2021年に地元自治体がコースと建物を買収する話を持ち上がり、23年には官民共同体が15万ユーロで購入した。当時のレートで10億円強だからかなり安いような気がする。

25年9月にはポニーのレースなどイベントが実施された、ネットで情報をあつてもなにぶんフランス語なので正確にはつかめていないが、いまも競馬場再開に向けた工事中で、アスベスト除去が必要なスタンドなどがリニューアルされるようだ。一度廃止された競馬場が復活となればかなりレアなケース。無事実現したらまた行つてみたい。